

令和5年度 教育課程特例校実施状況(自己評価・学校関係者評価)に係る評価事項

文部科学省から「教育課程特例校」の指定を受け、素和美小学校では全ての教育活動(学校生活全般・教科学習)を英語で行うイマージョン教育を実践しています。ここに令和5年度の自己評価結果を公表し、さらに充実するよう取り組んでまいります。

	項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
英語で行う特色ある学び	英語環境の充実	1.朝のミーティングから終わりの会まで一貫して英語を使用する。	A	1.朝のミーティングでは、当番の児童が英語で進行を行い、全校児童が英語でのコミュニケーションに慣れ親しむことができた。	A	英語環境の整備が着実に進んでおり、児童の英語使用場面が増加している。今後は児童間での自発的な英語使用をさらに促進する取り組みを期待する。
		2.ブラックバインダーへの記録を英語で行い、振り返り活動を充実させる。		2.ブラックバインダーの記録について、上級生が下級生をサポートする体制が定着し、異学年交流が活発化した。		
		3.教室環境の英語化を推進し、掲示物や学習成果物を英語で作成する。		3.各教室の掲示物を英語で統一し、日常的に英語に触れる環境が整備された。児童の作品も英語での表現が増加した。		
		4.英語図書の計画的な整備と活用を進める。		4.英語図書については段階的に充実を図っているが、予算の制約により十分とは言えない状況である。		
		5.ICT機器を活用した英語学習環境を整備する。		5.タブレット端末を活用した調べ学習や発表活動において、英語での情報収集・発信力が向上した。		
		6.日本人教員と外国人教員のコミュニケーション促進し、連携体制を強化する。		6.ティーチングにおいて、両教員の連携が深まり、効果的な指導が展開できた。		

英語による探求的な学び	1.児童の興味・関心を起点とした教科横断的な学習を英語で実施する。 2.探求的な学習過程において、英語での思考・表現活動を重視する。 3.個々の英語力に応じた支援体制を構築する。 4.教員研修を充実させ、指導力の向上を図る。	B	1,2.児童の興味に基づいたプロジェクト型学習を英語で実施し、教科の枠を超えた学びが展開できた。特に環境問題や地域学習において、英語での調査・発表活動が活発に行われた。 3.児童一人ひとりの英語力を把握し、個別支援計画を作成して対応した。習熟度別のグループ活動も効果的であった。 4.校内研修会を定期的に行い、探求的な学習の指導法について教員間で共有を図った。理念の再確認のため理事長による研修も複数回実施した。	B	探求的な学習において、児童が主体的に英語を活用する姿が見られる。教科横断的な取り組みの成果が表れており、今後も継続的な実践と改善を期待する。
-------------	--	---	---	---	---

備考 A (十分に効果があった) B (成果があった) C (少し成果があった) D (成果がなかった)

令和4年度 教育課程特例校実施状況(自己評価・学校関係者評価)に係る評価事項

文部科学省から「教育課程特例校」の指定を受け、素和美小学校では全ての教育活動(学校生活全般・教科学習)を英語で行うイマージョン教育を実践しています。ここに令和4年度の自己評価結果を公表し、さらに充実するよう取り組んでまいります。

	項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
英語で行う特色ある学び	英語環境の充実	1朝のミーティング時から英語で始める。 2ミーティング時に1日の予定、計画を英語で記録する。 3掲示物・発表等に効果的に英語を使用し、今-ジョン教育の環境整備を揃える。 4英語図書を揃える。 5ICT教育を効果的に行う。 6パソコンやプログラミング指導は日本人教員と外国人教員の2人による指導体制をとる。	B	1世話役の上級生が英語で出席を取ったり、予定を伝えたりしていた。 2上級生が下級生のブラックバインダーの記録の仕方を点検し英語の綴りをアドバイスしたりしていた。そのことによって上級生と下級生の垣根がなくなり人間関係が構築され、休み時間に一緒に遊ぶ姿が見られた。 3教師のアドバイスを受けなくても自発的に子ども自身が発表や作品を英語で表現することができるようになった。特に英語劇やミュージカルの発表を行い、そのレベルは毎年のように向上している。 4予算面もあり十分とは言えないが、充実するための努力をしたい。 5パソコンやiPadを活用してプレゼンを行うことができた。 6日本人教員と外国人教員が英語で意思疎通を図り、協力し合う姿ができていたが、外国人教員に指導を任せきりという場面も見られた。	B	教員からの英語による働きかけによって子供たちは自然と英語に慣れ親しむようになってきている。子ども同士で英語を活用してのコミュニケーションを図る場面や環境設定を構築していく。

英語による探求的な学び	1子供の学びを尊重し、教科の枠を超えた生活・自然・社会からの学びを英語を通して行う。 2学校教育活動の全てで、英語による探求的な学びを展開する。 3学びの様子をポートフォリオに記録し、個々の英語力に合わせた支援を展開する。 4教員の研修を深め、教員として指導力の向上を図る。	B	1, 2子どもの興味関心を尊重する活動を英語で行うことにより、教科横断的な探求学習を実施できた。しかし、担任の経験と探求学習の理解度によって軽重が見られた。 3日々の子供たちの学びの様子を記録して、ここの英語力が高まるようにするために教員がかかわるように努めたが、さらに英語力を高めるための支援の方法を会得していくことが求められる。 4英語による探求的な学びを推進するためには、教員自身による自己研修を深めるとともに、組織としても研究会全体会を設けるなど、学校全体で子どもへの指導力を高めることが必要である。	B	低学年では、探求学習の基本となる調べ学習を中心に英語でプレゼンしたり効果を上げている。また、中高学年はその活動を活かしてさらに教科横断的な活動を教員の研究・研修に期待したい。そして中学校へつなげていただきたい。
-------------	---	---	---	---	--

備考 A (十分に効果があった) B (成果があった) C (少し成果があった) D (成果がなかった)

令和3年度 教育課程特例校実施状況(自己評価・学校関係者評価)に係る評価事項

文部科学省から「教育課程特例校」の指定を受け、素和美小学校では全ての教育活動(学校生活全般・教科学習)を英語で行うイマージョン教育を実践しています。ここに令和3年度の自己評価結果を公表し、さらに充実するよう取り組んでまいります。

	項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
英語で行う特色ある学び	英語環境の充実	①朝のmeeting時や歌や劇など、児童が積極的に英語に触れる機会を設ける	B	①ブラックバインダー(日々の学習や生活の記録)を英語で行うことで、英語で記録する習慣が度の学年においても定着していく傾向にあった。	B	教員と児童だけでなく、児童同士が英語を用いてコミュニケーションを図る場所を構築していく。
		②掲示物等に効果的に英語を用いる ③英語図書をそろえる ④教員は該当時間の指導では原則的に常に英語を用いる		②各担任が工夫を凝らし、教室の中の掲示物の充実を図る必要がある。 ③全体的に量が不足しているので、計画的に購入を検討していく。 ④指導する内容によっては、日本語の使用が多くなってしまうことがある。		

	英語による探求的な学び	①教科の枠を超えた学びを英語で行う。 ②教科学習の中で、英語で探求的学びを展開する。 ③教員の指導力向上を図る。	B	①テーマを軸とした教科等横断型探求授業を実施したが、教員と児童の英語による対話のさらなる充実を図っていく。 ②授業の中で触れた表現を使用する場面が見られた。 ③課題の共有と課題に対する対策を職員全体で考えていく。	B	教科内、教科等横断型授業について、一方的ではなく、児童と教員、あるいは児童同士が対話を重ねて取り組めるよう努力する。
--	-------------	--	---	--	---	--

備考 A（十分に効果があった） B（成果があった） C（少し成果があった） D（成果がなかった）

令和2年度 教育課程特例校実施状況(自己評価・学校関係者評価)に係る評価事項

文部科学省から「教育課程特例校」の指定を受け、素和美小学校では全ての教育活動(学校生活全般・教科学習)を英語で行うイマージョン教育を実践しています。ここに令和2年度の自己評価結果を公表し、さらに充実するよう取り組んでまいります。

	項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
英語で行う特色ある学び	英語環境の充実	①朝のmeeting時や歌や劇など、児童が積極的に英語に触れる機会を設ける	B	①児童が英語の歌を覚える吸収力は目覚ましく、また劇においても台本や台詞作りに挑戦するなど、そのような場面で英語に触れることは、英語学習にも有効だったので今後も継続したい	B	英語で学ぶ環境が様々な工夫により整えられ、自然な流れの中で英語を聞く力が向上し、英語で話し返す姿も見られるようになった。今後は習熟度に応じた指導も加えていく必要があると考えられる。
		②掲示物等に効果的に英語を用いる		②それぞれの担任が工夫を凝らしていたが、さらに充実することが望まれる。常に言語習得を意識した掲示物を作成するよう心掛けたい		
		③英語図書をそろえる		③現時点において必ずしも十分な数があるとは言えない。今後、計画的に探求学習の資料になるような書籍を増やしていく		
		④教員は該当時間の指導では原則的に常に英語を用いる		④教員は概ね英語を使用して授業ができていた		
		⑤ICTを効果的に用いる		⑤児童が外国人教員が英語で学習報告をするなど、有効に活用できていたため今後も継続したい		

英語による探求的な学び	①教科の枠を超えた学びを英語で行う ②教科学習の中で、英語で探求的な学びを展開する ③教員の指導力向上を図る	B	①テーマを軸とした教科等横断型探求授業を実施したが、その内容や成果は学年・クラス間で差があった 今後は教員の研修やミーティングの時間をさらに確保し、協働的に学校全体として整合性のあるカリキュラムを構築していきたい ②英語を用いる教科の中では児童が体験的に英語を身に着けることができた ③各教員が自分の課題を見つけ、指導力の向上につなげる必要がある	B	英語での探求的な学びには相応の準備が求められるが、教科内、教科等横断型授業双方について計画的実施の研究を深めることが望まれる
-------------	---	---	---	---	--

備考 A（十分に効果があった） B（成果があった） C（少し成果があった） D（成果がなかった）